

## 理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

## 基本方針

- ・地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- ・地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- ・二次医療を中心に担当します。
- ・医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- ・超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

＼ 工夫がいっぱい詰まっている ／

# 飲み薬の剤形と特徴

私たちが病院で診察を受けた後、多くの場合お薬が処方されます。そのお薬は用途や目的によって剤形が異なり、薬の効果を高めたり、患者さんが使用しやすいように作られています。

例えば飲み薬の場合、大きく4種類あり、それぞれ特徴があります。

## 錠剤



薬の成分とデンプンなどの添加物を混ぜ合わせ、圧縮して固めたものです。錠剤はどれも似たような形をしていますが、いろいろな工夫がなされています。苦味や臭いのある錠剤を糖分などでコーティングして飲みやすくした糖衣錠、水が無くても唾液だけで服用できる口腔内崩壊錠（OD錠）、長時間効き目が持続する徐放性製剤や、胃で溶けず腸で溶けるように調整された腸溶性製剤などがあります。携帯性が良く、保管も容易です。

## カプセル剤



カプセル剤は、粉や液体のお薬をゼラチンなどで作られたカプセルに包んだお薬です。糖衣錠と同様に苦みや臭いを気にせずに服用できますし、外側のカプセルは空気や光に弱い成分を守る役目もあります。また、カプセルが溶けて薬効成分が体内に放出されるまでの時間が調節できるように工夫されたものもあります。そのため、医師や薬剤師の指示なくカプセルをかみ砕いたりカプセルを分解して服用してはいけません。

## 散剤（粉薬）・顆粒剤 ・ドライシロップ

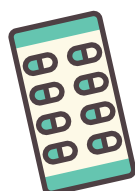


錠剤やカプセル剤に比べて早く体内に吸収されるため、早い効果が期待できます。量の調整が容易なので、患者さんの体重や症状に合わせて処方することができます。また、複数のお薬を調剤することも可能です。顆粒剤は散剤より粒が大きく、飲みやすいように味やにおいがつけられているものや、水に溶かしても甘みがあり、主に小児向けのドライシロップという散剤もあります。

## 内服液剤（シロップ剤）



薬の成分を水に溶かした液体状のお薬です。シロップ剤は糖類や甘味料を加えて飲みやすくしたものです。錠剤や散剤の服用が難しい高齢者の方や、苦いお薬が苦手なお子さんにも服用しやすいように工夫されています。成分が沈んでいる場合があるため、容器を軽く振ってから服用しましょう。



このように飲み薬は、疾患、症状、用途によってさまざまな剤形があります。お薬が服用しにくかったり、お薬の剤形について分からないことがありましたら、かかりつけ医・薬剤師に相談してみてもいかがでしょうか。その際はお薬手帳をお忘れなくお持ちください。



# 病院ではたらく人 言語聴覚士



リハビリテーション部 言語聴覚士 西垣 有賀子

## 言語聴覚士とは

言語聴覚士は、話すことをはじめとした、音を聞く・ことばを理解する・書く・読むといったコミュニケーション機能の回復・改善を図るリハビリテーションの専門職です。また、口の機能を専門とすることから、食べる・飲む・飲み込むといった摂食・嚥下(えんげ)機能に障害がある方に対しても介入しています。

言語聴覚士の英語名は、「**S**peech **L**anguage **H**earing **T**herapist」と表記されるため、医療従事者間では「ST」と略して呼ばれています。

## 言語聴覚療法を受ける 主な患者さん

言語聴覚療法の対象となる方の多くは、総合診療科・内科・脳神経外科・外科・整形外科などの診療科にかかる患者さんです。例えば、交通事故による頭部外傷等で脳血管疾患(脳梗塞・脳出血)となった患者さんは、コミュニケーション障害や嚥下障害が現れることがあります。また、疾患・外傷でなくても加齢による嚥下機能の低下が原因で、呼吸器疾患、特に誤嚥性肺炎となる場合があります。このような患者さんが持っている問題を調べたり、機能改善のためのリハビリテーションを行ったりします。

## 当院における

## 言語聴覚士のお仕事・活動

当院は急性期～生活期・終末期の患者さんが入院されており、その過程ごとに言語聴覚士の介入方法も変化が求められます。

急性期では、特に嚥下評価(飲み込み機能の確認)が重要です。意識レベルに配慮しながら、内服が可能か、食事開始の可否や食事形態を医師が判断できるように的確に情報提供することが求められます。評価を基に、訓練プログラムを立案し多職種と連携しながら目標に向かって日々介入しています。介入当初から退院後を見据えた介入をし、退院後もご本人・ご家族ができるだけ自分らしい生活を送ることができるように支援します。必要に応じて家族指導も行っております。

また、臨床業務以外に、院内の勉強会講師、モーニングレクチャー講師、院外の施設や看護学校への研修会講師等の業務も行っています。

## さいごに

言語聴覚士は1997年に法制度された比較的新しい資格です。歴史が浅く、ご存じない方も多いと思いますが、今回、言語聴覚士の存在を知っていただけたら嬉しいです。



コミュニケーション機能の回復・改善を図るリハビリテーションに用いる道具(左)と、リハビリテーションを実施している様子(右)。



嚥下機能の評価を行う時に用いる道具。

# ある日は突然やってくる

～救急医療現場での意思決定支援について～

参加費 無料

申し込み 不要

日時

令和6年3月3日(日) 13:00～16:20

会場

さざんか会館 5階大会議室

さざんか会館駐車場・鳥取市役所駅南庁舎駐車場をご利用ください。

定員

100名(先着順)

## Aアドバンス Cケア Pプランニングとは？

自分らしく豊かな人生を送るためには、人生の最終段階になってからいろいろな問題を整理するのではなく、元気な時から自分らしい人生について考え、そしてその考え方や価値観を他者と共有しておくことが大切です。

自分の思いや考えについて、家族など周りの支えてくれる人たちと「あらかじめ」話し合い、また繰り返し話し合うことをACP(アドバンス・ケア・プランニング)=人生会議といいます。

## 鳥取市立病院の取り組み

鳥取市立病院は、地域住民が最期まで自分らしく暮らせるよう、ACP(人生会議)の普及に力を入れています。医療では、緊急で意思決定をしないといけない場面(救急搬送される患者のほとんどが、大切なことをまだ決めていない。)においても、「本人の意向」を推定し意思決定を心がけることが求められます。緊急時のACP事例を通じて、私たちの生活における心がまえを考えてみませんか？

### 講演会 第1部 基調講演

演題

## 緊急ACP

～救急・集中治療の現場での意思決定支援～

講師

帝京大学医学部外科学講座  
Acute Care Surgery部門  
病院准教授、部門長 准教授

いとう  
伊藤

かおり  
香  
医師



### 講演会 第2部

演題

## ACPに関わる 保険・医療従事者の発表

講師

鳥取県立中央病院 高次救急集中治療センター長

小林 誠人 医師

鳥取市立病院 救急看護認定看護師

桑村 香織 看護師

鳥取市立病院 看護師

三好真理奈 看護師

講演会の後に、講師を交えてディスカッションを行います。

お問い合わせ

鳥取市立病院 地域医療総合支援センター地域連携係

Tel. 0857-37-1522(代)

FAX. 0857-37-1558